

# まつぼっくり



宇城市立三角小学校  
学校だより 第69号  
文責 校長 西村羊治  
令和8年1月15日

学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」

## 元アナウンサー

1月14日(木)元アナウンサーの本橋馨さんに来校いただき、子どもたちに対する紙芝居や巨大絵本の読み聞かせを行っていただきました。子どもはもちろん、職員や保護者、みすみ絵本サークルの方と一緒に聞かせていただきました。さすが元アナウンサー、すばらしい読み聞かせでした。一つ



本橋さん



集中

目は、ストーリーも絵も本橋さん手づくりの「おじじとおばの三っ子山」、拍子木・水笛・シンバル・はり扇なども駆使して視聴者全員が引き込まれるおもしろくて楽しい読み聞かせでした。1年生から6年生までたくさんの笑顔と集中した表情が印象的でした。また、菊池地方の民話や「わくどになったおはぎ」「花さき山」と楽しいもの、深く考えさせられるものといろいろなものを披露してくださいました。子どもたちの感想には、「おばあちゃんが、梅干しと間違えてうさぎの糞をおにぎりに入れたところがおもしろかったです。」や「花さき山できれいな花が咲くのを聞いて感動しました。」「また、聞きたいです。」など、本橋さんも喜んでいただけのものです。お話好き・読書好きの児童が増えることと思います。本橋馨様、お忙しい中に本当にありがとうございました。

いました。子どもたちの感想には、「おばあちゃんが、梅干しと間違えてうさぎの糞をおにぎりに入れたところがおもしろかったです。」や「花さき山できれいな花が咲くのを聞いて感動しました。」「また、聞きたいです。」など、本橋さんも喜んでいただけのものです。お話好き・読書好きの児童が増えることと思います。本橋馨様、お忙しい中に本当にありがとうございました。

## 成長 大人も

私は今58歳です。小学校の時は勉強や学校嫌いで、なんの取り柄もない目立たない児童でした。中学校の柔道部で鎖骨を折ったりきつい練習をしたりするなかで忍耐力や礼儀を学びました。その時の恩師の先生とは今でも飲みます。高校でも勉強は苦手です。平凡な3年間を過ごしました。大学は県外に出て初めて親のありがたさがわかりました。子どもが好き、教えることが好きだったので、必ず熊本県の教員になると決めたのは大学の時です。公立の小中学校の教育実習が決め手となりました。そして、晴れて熊本県の教員になりましたが、挫折・挫折の教職人生が続いています。中学校勤務時には、生徒指導・部活動・進路指導と本当に土日なしの激務(当時)でした。しかし、そこで得た経験は私を大きく成長させてくれました。特別支援学校・小・中学校・県立教育センター・市教委、教諭・主幹教諭・教頭・指導主事・校長といろいろな校種や学校職種を経験させていただきました。環境が変わった時は文化の違いややり方の違いで面食らい、とても戸惑いますが確実に視野が広がります。間違いありません。いろいろな立場を経験させていただくことで、その立場のことが分かり、すべての立場の方々が、学校現場にいる子どもたちのことをしっかり考えていることを実感しました。私の経験上自信を持って言えることです。子どもたちには「命」を守り、「成長」していただきたいと言っています。私も58になりますが、子どもたちに要求している以上、私自身も「命」守り「成長」し続けなければと真剣に思っています。



笑顔



一緒に